

## 〈紹介〉

# 長島弘明校注『雨月物語』、 長島弘明編『奇と妙』の江戸文学事典』

五月女 肇 志

今回紹介する二冊の本は何れも本学で教鞭を執っている長島弘明氏の著書である。

最初に紹介する岩波文庫の『雨月物語』は、各編のあらすじが大変わかりやすく記され、最新の研究成果を基に詳細な注が記されている注釈書である。理解しづらい箇所は現代語訳が示される等上田秋成研究の第一人者である氏による懇切な説明が加えられ、読者にこの作品の魅力の多大さを伝えてくれる注釈書と言えよう。氏の『秋成研究』（東京大学出版会）の成果も十分に反映されており、かつて私が受講した、氏による数々の秋成作品の講義・演習のことが思い出された。

もう一点紹介するのは、氏がこれまで教えを授けた人達と共に作成した文学事典である。この本が披露された三年前のパーティーの折、氏の「人に恵まれた」という発言が大変印象的であった。その言に違わず、執筆陣には学界、教育界で活躍中の諸氏の名前が多く見え、編者の優れた指導力がうかがわせるものでもあろう。

七十三に及ぶ全ての項目で【あらすじ】もしくは【概要】、【見ど

ころ】、【もっと深く】、【テキスト・読書案内】が置かれ、各作品の大まかな内容を知った上で優れた場面を味わい、さらにその魅力を深く知り、実際に手に取って読んでみたくするような構成となっている。

近世文学の授業で取り上げていない作品も多く挙げられた上で詳しく解説されており、近世文学を深く学びたい人に格好の書と言えよう。著名な作品についても、最新の研究状況を詳しく解説しており、読んで一層興味を持つことになるだろう。近世文学にあまりなじみのない人でも、読むと近世文学の豊かな世界を間違いなく理解できるはずである。

近世文学は先行する時代の文学の影響が色濃く反映している上に、近現代の作品にもつながって行くものなので、他の時代の国文学作品に興味の中心がある人もぜひ手に取ることを勧めたい。現代の著名なアニメに影響を与えた作品も扱われている。

近世文学は絵画との結びつきが強いのが特徴であるが、それぞれの項目で当時の本の見開き部分が図版で示されており、絵や文字の形態がもたらす効果を実感できる。また、同じモチーフが、異なる作品だけでなく、他の文学者・文学ジャンルにも取り入れられ、多彩な姿が描かれる様子も、詳しく解説されている。付録として近世文学独特の用語解説・年表も備えられ、この時代の文学の特徴・流れを把握するのに大いに寄与するであろう。

ただ一つの懸念は、余りにも行き届いた配慮がなされていて、この本の説明だけでそれぞれの作品を読んだつもりになってしまっ

とである。各執筆者は細心の注意を払ってネタばれを避けながら解説をしているので、是非各項目の末尾に記されている【テキスト・読書案内】を利用して、それぞれの作品の魅力を一層深く味わって頂きたいと思う。

（岩波書店 二〇一八年二月刊、文学通信 二〇一九年五月刊）